



2018. 2. 9

## 年少組の生活発表会

1/22(月)から年少組の生活発表会がスタートしました。2/1(木)ちゅうりっぷ組の発表が終わり、年少組の全てが終了しました。それぞれのクラスでたくさんの保護者の皆さんが来られ、子どもたちはとても喜んでいました。有り難うございました。

年少組の生活発表会は、それぞれのクラスで日常の活動を意識した内容を考えて構成しました。子どもたち同士のかかわりの様子や、ありのままの姿を見ていただくようにしました。それぞれのクラスが発表の場になっていましたから、大きな会場でもありません。見づらいところがあったかもしれませんが、子どもたちがふだん活動しているところを発表の場にして、安心して取り組めることを最優先しました。

今回、5つの発表では、どのクラスも子どもたちがのびのびと活動していました。ときには、緊張と不安で気持ちが退けてしまう子どももいましたが、友だちや先生とより信頼し合う関係づくりをして、自分を安心して表現できるようにしたいと思っています。一人一人を大切にしながら、子どもとかかわっていきます。



たんぼぼ組は、野菜が体のためになることを教えてくれました。



すずらん組は王様が服を着ていくのが楽しかったです。



ばら組は線路をどどん作りました。よく頑張りました。



もも組は忍者の修行を楽しそうに演じてくれました。



ちゅうりっぷ組はみんなで力を合わせてミックスジュースを作りました。

## パパママパワーアップ！ 教えて!! 今どきの小学校のこと

1/30(火)今年度、最後になる“パパママパワーアップ！”がありました。内容は、小学校について知っているようで知らない最新事情を、このパワーアップで取り上げました。

お話をしていただいたのは、元防府市立華浦小学校長の小野素子先生です。小学校の先生として、長い年月過ごしてこられた経験に基づいたお話を聞くことができました。15名程度の保護者の皆さんが小野先生のお話に熱心に耳を傾けられました。小野先生のお話を、ここで紹介したいと思います。

小学校で先生が、何をどう教え、子どもたちが何ができるようになるかを「学習指導要領」に示してあります。それには育てたい3つの資質・能力が示されています。

- ・知識及び技能の習得
- ・思考力、判断力、表現力等の育成
- ・学びに向かう力、人間性等の涵養

同じように学校教育法でも、学力の重要な要素として「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学習意欲」の3つが定められています。これまでは、知識・技能に重点が置かれている傾向もありました。しかし、今では「覚えることだけじゃないよ。自分の力で考







えたり判断したりして表現することが大切だよ。そして意欲も大切なんだよ」となりました。

保護者の皆さんが経験した学校とは違うことを、今の学校では求められているのです。こんな時代に、親はどうしたらいいのでしょうか。今、幼児期の子を育てるときの配慮事項をまとめてみました。

- ・人との交流を大切にすること。子どもを地域の中で育てていくという意識を持つこと。
- ・遊びや体験を大切にすること。遊びは、手先や体全体を使う活動を促し、創造的な活動ができるようになる。
- ・子どもの興味があることから、発達段階に合わせて伸ばしていく。
- ・あまり学習を先取りしないこと。学校では段階的に教えていく。先取りしすぎると「オレ知っちゃるもん」という子も出てくる。学校での学びに意欲を失う場合もある。

次に、実際の子育てはどうしたらいいのでしょうか。大切なことは、親が心の余裕をもって、子育てを楽しむくらいの意識が大切だと思います。

- ・急ぎすぎないこと
- ・詰め込み過ぎないこと
- ・しぼり過ぎないこと
- ・親が心に余裕をもって接すると、子どもの心に余裕が生まれることを意識しよう
- ・他者との比較ではなく、子どもの特徴、個性、よさを親自身が認めること

もう少しポイントをくわしく触れると次のようになります。一つめは、必要なときは叱ることです。明確にやってはいけないことや、すぐに改められることは、ちゃんと叱ることが大切です。反対に、明確にやってはいけないと判断できないことや、改めることができないことは叱らないことも必要です。

子どもたちは、叱られながら善悪や社会のルールやマナーを学んでいきます。叱られない子どもは、家庭の外にある社会的な基準が見えなくなってしまう傾向が強くなります。叱られることで、考える力、我慢する力、思いやりの心が育ってきます。

二つめは、ちゃんと認めることです。がんばったことは、しっかり認めてほめることが大切です。人は、自分のやっていることが大切な人に認められれば、やる気が出ます。反対に自分のやっていることが大切な人に否定されれば、やる気はなくなります。子どもは、うれしさ、楽しさ、喜び、やりがいなどを感じたときに、意欲をもつようになります。

子どもが成長する段階では、いろいろなことがあって当たり前です。成功や失敗を一つ一つ乗り越え、子どもは成長していきます。子どもの将来の姿を信じ、今の子どもを信じることなのです。

今回のお話を聴いて、園長の私も同じように感じました。親は「転ばぬ先の杖」のように心配し、口を出すことがよくあります。しかし、子は失敗していろいろ気づきます。そこで、失敗から自分を振り返り「今度はここに気をつけよう」と考える子どもになってくれるように声掛けをしてほしいのです。子どもの育ちは大きく変わってくると思います。

# 「あそび」とは？

私たちは幼児の育ちに「あそび」が大切だとよく話します。しかし、その「あそび」がどのような効果があり、何が育つかを具体的に示せていなかった気がします。

「あそび」というと、私たちはどうしても休憩時間の遊びをイメージしてしまいがちです。でも、幼児期のあそびは、子どもの生活そのものになっています。このあそびの中には、大人が驚くほどの「学び」が詰まっているのです。あそんでいるとき、子どもはいつも主体的で、あそびながら目の前にあるものや手に取ったものを観察します。新しい技能やもっている力を何度も使い、確実なものとして向上させます。あそびの中に、知識や経験として取り入れ、模倣したり、改善したりして深く理解していきます。ときには、友だちと衝突することがあったとしても、あそびの中では工夫し問題解決の道を探することができます。あそぶなかで子どもは自分の能力を知り、同時に可能性も伸ばしていくのです。あそびのなかで、子どもは自分の心と感覚を発達させているのです。

保護者の皆さんが子どもの様子をご覧になったとき、「遊んでいるだけ」とか「できた・できていない」という視点だけで見ないで、取り組んでいる様子をしっかりと見てあげてほしいのです。そして頑張っている過程を認めてあげてほしいのです。「できること」に大人の関心が高ければ、子どもは逆に失敗する結果を恐れ、チャレンジしなくなることも考えられるからです。

今、私たちの幼稚園は、子どものあそびが発達を促すような質であるために、研修に取り組んでいます。そのため、今月の24日(土)、野田学園幼稚園へサライ美奈先生に来園していただき、園内の研修会を行うことになりました。サライ先生は、最初は兵庫県尼崎市で保育園に勤務されました。現在は、ハンガリーに生活の拠点を移し、世界的な視野で幼児教育を考え、保育・教育、生活に関する執筆を多数されています。

実は、ここで紹介した「あそび」についてもサライ先生の著書「ハンガリーたっぷりあそび就学を見通す保育」(かもがわ出版)を参考にさせていただきました。その内容がすんなりと入ってきたからです。だから、この研修会をとっても楽しみにしています。また、どんなあそびが、発達にいい影響を与えるのか研修で深め、後日皆さんへも紹介していきたいと思っています。

